

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177600293		
法人名	有限会社 ひなた		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	石狩市花川南2条6丁目118番地 (電話) 0133-74-9646		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月18日	評価確定日	平成22年3月30日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 6月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 10人、	非常勤 1人、 常勤換算 8.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての 2~3 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000~35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費:6,000円(10~5月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日あたり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(3月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふれあいクリニック、遠藤内科医院、花川病院、ドゥケア歯科クリニック
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市に隣接した石狩市の住宅街にある民家改築型の3階建て(うち2~3階を利用)、1ユニットのグループホームである。事業所としてサービスの向上に向けて高い目的意識を持って取り組んでいるのが特徴である。分かりやすい理念を職員や家族が共有し、生き生きとした暮らしや地域との交流が実現されている。また、家族や市とのコミュニケーションも密に取られ、内容の充実したホーム便りを提供したり、認知症サポーターなどの市の事業に積極的に協力している。医療機関の往診体制や看護師の配置など、医療面での安心も確保している。職員の育成にも力を入れており、職員の離職が少なく、利用者や家族の安心にもつながっている。自己評価や外部評価についても職員全体で話し合い、評価を活かしてサービスの向上を図っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、地域密着型サービスとしての理念、災害対策(避難訓練)などの項目に積極的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを管理者が取りまとめ、取りまとめ後の検討会も行なわれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度、石狩市や地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、利用者家族などが参加して開催している。活動報告のほかサービス評価、地域との関わり、感染症対策などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	介護計画を説明する際などに家族の意見を聞いている。また運営推進会議に参加する家族にも意見をもらっている。重要事項説明書には石狩市や国保団体連合会などの外部の苦情受付機関も明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加しており、町内には「ぐるーぷほーむひなた便り」を回覧し、消火器訓練や行事案内を行なっている。散歩した時は近所の人たちが気軽に話しかけてくれる。読み聞かせやハーモニカ、歌のボランティアが訪問してくれたり、ひな祭りには事業所で地域の方と桜餅を作ったりしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営理念の中に「地域の人と支えあい笑顔がいっぱい ひなたの家」という文言を入れており、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。理念は職員が相談して作成したものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事業所の玄関に入ってすぐの見やすい場所に掲示しており、パンフレットにも記載している。分かりやすく覚えやすい理念であり、職員も理念を共有できている。理念の中の「自分らしく いきいき」という言葉を意識し、利用者一人ひとりに配慮した介護に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加しており、町内には「ぐるーぷほーむひなた便り」を回覧し、消火器訓練や行事案内を行なっている。散歩した時は近所の人たちが気軽に話しかけてくれる。読み聞かせやハーモニカ、歌などのボランティアが訪問してくれたり、ひな祭りには事業所で地域の方と桜餅を作ったりしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に評価表を配布し、それぞれが記入したものを管理者が取りまとめており、取りまとめ後の検討会も行なわれている。前年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」については、地域密着型サービスとしての理念、災害対策（避難訓練）などの項目に積極的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1度、石狩市や地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、利用者家族などが参加して開催している。活動報告のほかサービス評価、地域との関わり、感染症対策などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>石狩市や地域包括支援センターの職員がホームの運営推進会議に参加しており、情報を提供してもらったり相談しているほか、管理者が認知症サポーターとして地域での啓蒙活動を行ったり、グループホーム連絡会ではスタッフ交流会の事務局を担当している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に直接利用者の状況を報告しているほか、電話やメールでも報告している。事業所全体的様子や来訪者、行事案内、個々の様子などを詳しく記した「ひなた通信」を毎月作成して家族に送付しており、職員の交代や金銭出納の報告も適切に行なっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護計画を説明する際などに家族の意見を聞いている。また運営推進会議に参加する家族にも意見をもらっている。重要事項説明書には石狩市や国保団体連合会などの外部の苦情受付機関も明示している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は極めて少ないため、利用者のダメージについて配慮する場面はほとんど起きていない。運営者は職員に労働条件を明示して法令を遵守した対応をしており、職員と信頼関係を築いて離職が少なくなるように努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員が年に2～3回程度外部研修に参加しており、研修報告書も作成されている。研修の後はミーティング時に報告会を開催している。段階に応じた研修については、経験が3年未満の職員以外の全ての職員がすでに実践者研修を済ませている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者と1名の職員が認知症サポーターのキャラバンメイトに参加しており、他のグループホーム関係者と交流機会を持っている。また石狩市のグループホーム連絡会が主催する年2回程度の職員研修にも職員が参加し、グループワークなどで他のグループホーム職員と意見交換している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>開設当初からの利用者が多く、最近は利用者の入れ替わりが少ないが、新たな入居希望者は事前に見学に訪れたりデイサービスを利用することで職員や他の利用者と馴染みの関係を築き、納得した上で利用を決めることができる。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理の味付けや材料を入れる順番、野菜の切り方など職員が利用者に教えてもらう場面も多い。また、職員が悩んでいる時に利用者が慰めてくれたり、介助の際に職員に感謝の言葉をかけてくれる場面もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向を言葉で表わすことが困難な利用者でも表情や仕草、行動パターンを職員間で共有し希望を把握している。また利用者ごとにセンター方式のアセスメントシートを作成し、利用者の生活歴や嗜好などの情報を把握・蓄積している。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時に本人や家族の希望を聞き、アセスメントに基づいて様子を見ながら2週間以内に当初の介護計画を作成し、1～2ヶ月後に新たに得られた情報を加えて再度計画を作成している。日々の記録は職員が介護計画を参照しながら記録している。介護計画は家族に説明し、サインをもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月2回のミーティングの中でデイサービス利用者も含めて全員のカンファレンスを行ない、職員の意見交換の上、各利用者の介護計画の内容を見直している。身体状況などの変更点があれば1～6ヶ月の期間内で計画の再作成を行なっている。なおミーティングには夜勤者以外の全員が参加している。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>2年前からデイサービスを開始し、6名が登録し利用している。近所の理美容院への送迎を行なっているが、昨年からは訪問の理美容も利用できるようになった。また、家族が事業所に宿泊を希望する際は利用者の部屋で宿泊をしてもらっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携医療機関による月2回の往診を受けている。提携医以外の通院を希望する場合で家族の対応が難しい時は事業所で通院を支援している。受診結果については日々の記録に内容を記し、電話やFAXなどで適切に家族に報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所として看取りの経験もあり、本人や家族の希望を尊重して、医療機関や看護師と協力し、なるべく希望に沿う方針としている。また「重度化した場合の対応に係る指針」について家族に説明し書類を取り交わしている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の利用者のプライバシーに対する意識は高く、日ごろから利用者に配慮した声かけや対応が行なわれている。また、個人の記録は職員スペースに安全に保管・管理しており、記録の際も他の利用者に見えないよう配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるが利用者は概ね自由に自分のペースで過ごすことができている。起床が遅い場合は食事を取っておき、後からでも食べられるようにしている。散歩や体操、レクリエーションなどの参加も本人の意思に合わせている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が会話しながら楽しく同じ食事を摂っている。料理の下ごしらえや下膳、食器拭きなどを利用者の手伝ってもらっている。利用者の誕生日には希望を聞いて好物のメニューを取り入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能であり、各利用者が週2～3回程度の入浴を行なっている。時間帯は午後が中心となっているが、午前中にシャワーに入るなど柔軟に対応している。介助する職員を利用者の希望に合わせて、場合によっては2～3人による入浴介助も行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の手伝いやお茶入れ、掃除機かけ、食器拭きなど利用者が個々の能力に応じて役割を持ち手伝ってくれている。手芸や読書、歌などの趣味の活動を行ったり、マッサージ通いを続けている方もいる。レク活動は輪投げ、玉入れ、風船バレーなどで楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように近くの公園まで散歩したり、近所の家の庭を見て楽しんでいる。一方、利用者の介護度が進むにつれて行事による全体での外出機会は減少傾向にあり、冬場の日常的な外出も少なくなっている。		冬場の外出について、天気の良い日など可能な日を選んで短時間でも外出や外気浴ができるよう、利用者の外出意欲を引き出したり、安全な外出支援の工夫を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけていない。玄関ドアに接触式のセンサーを設置し、外出がある場合は分かるようにしている。また利用者の傾向を把握して、外出があれば止めないで同行するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼夜を想定した避難訓練を消防署の協力のもと実施している。運営推進会議で町内会長や近くに住む職員にも災害時の協力を依頼している。救急救命訓練は管理者が受講済みであるが、職員は定期的な受講をしておらず、受講内容や方法を検討している。		職員の救急救命訓練について受講内容や方法を検討中とのことであり、今後の定期的・計画的な受講の実現を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は事業所が栄養バランスを考えて作成しており、市から紹介を受けた管理栄養士のチェックを受けている。また、日々の記録に食事や水分の摂取量を記録し、十分な量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改築型のため温かみがあり、生活感や季節感のある共用空間となっている。壁には利用者や職員の写真、手作りの飾りが飾られている。明るさや温度、湿度なども調整され、居間はペチカで温かく暖房され、快適に過ごせるようになっている。トイレや風呂の手すりも十分に設置されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自由にタンスや戸棚、仏壇など個々の馴染みの品物を持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも家族の写真やカレンダーなど利用者が自由に飾り付けをすることができている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。